

# 支え合って 災害に強い地域づくりを

鳥取県西部地震を機に発足した「日野ボランティア・ネットワーク」で活動を行う山下弘彦さん（根雨）。震災直後から、ボランティアとして日野町で活動し、現在も県内外で講演やボランティア活動を行っている。

そんな山下さんに、災害に強い地域づくり、今後の地域活動や課題などについて、話を伺いました。

## 日野ボランティア・ネットワーク 山下弘彦さん

「震災から20年。災害に強い地域づくり活動とは。」

日野町は、地震の被害はもちろん大きいものですが、それ以前から高齢化や人口減少などの問題がありました。地震後、それらに加えて、例えば「地震で出たものではないけど、大型ごみが捨てられない」とか、もともとあった災害以外の生活課題が浮き彫りになったのです。そうした課題を地域で解決したり取り組んでいく状況をつくるのが、当時の活動の要でした。

震災当時、ボランティアの支援はあったし、地元の人たちは本当にがんばっていたと思います。しかし、「うちはこうします」と、個人ががんばっている印象がありました。「みんなで一つの力になる」というのは難



しいことではあるけれども、小さい町でそれぞれがバラバラに行動しても、限界があります。地域の皆さんで連携すれば、もっと力を発揮できるんじゃないか。そういう地域づくり活動を続けてきました。

例として、支え愛マップがあげられます。みんな課題を共有して、話し合っ

て決めていく。地区の事情はそれぞれで違うので、そういう話合いで、地域のつながりを確保していくことも大切だと思います。

「コロナ禍での活動について。今後の課題は。」

今年は、新型コロナウイルス感染症などにより、さまざまな活動に影響がでています。その中でも、お互いが話したり会ったりする機会をつくらないと、どんなことに取り組んでもうまくいきません。すべてを禁止にしていたら、今後状況がよくなったときに、何もできなくなってしまうんじゃないか。そのときの状況に合わせてやっていくのが大切なんじゃないかと思っています。

何事もやり続けていくこと、折り合いをつけていくことが必要な時期ですね。



10月4日、山村開発センターで行われた「鳥取県西部地震から20年座談会」（鳥取県西部地震展示交流センターほか主催）。地震を経験した人、してない人、それぞれの体験や想いを語り合い、防災への意識を高め合いました。

# 全町一斉防災訓練

町では、鳥取県西部地震の教訓を生かし、一人一人の防災意識の高揚を図るため、10月6日、全町一斉防災訓練を行いました。今回は、午前9時に鳥取県西部を震源とする地震が発生し、日野町で震度6強を記録したと想定。サイレンを鳴らし、町民に火の元の確認、落下物、余震などに注意しながら、玄関先まで避難するように、防災無線で呼びかけました。

役場内には災害対策本部が設置され、被害状況やその対応策などを確認したほか、自治会長



▲各地区からの状況報告を受ける災害対策本部



▲町公民館の避難所開設に向かう職員

からの避難状況の報告（仮想）を受け、安否確認も行いました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、毎年行っている避難所への住民避難は行わず、町指定避難所の一つである町公民館で、黒坂地区自主防災委員会との合同避難所運営訓練を実施しました。

避難所開設訓練では、自治会長や防災責任者など約20人が参加。AI温度センサーによる検温のほか、アクリル板や間仕切りを設置方法、ガウンや手袋の着脱方法など、コロナ禍での避難所運営を想定した訓練となりました。

## 塔田淳一町長のあいさつ

皆さんこんにちは。日野町長塔田淳一です。

地震はいつ発生するかわかりません。特に大きな地震が発生したときは、冷静に対応するのは難しいものです。

落ち着いて行動するためには、日ごろから災害への備えを確認しておくことが大切です。大きな災害が起きると、行政、消防、警察などの救助体制が整うのに時間がかかります。災害から身を守るためには、自ら守る「自助」はもちろん、近所の人たちが助け合う「共助」がとても大切になります。

また、今年は、鳥取県西部地震から20年を迎える節目の年です。町内も大きな被害に見舞われましたが、震災以後、町の魅力である自然や歴史、文化を生かした住民主役のまちづくりを進め、元気な地域づくりを進めてきました。

しかしながら、その間、少子高齢化や人口減少など、地域を取り巻く環境は厳しさを増しています。今後も、元気なまち、災害に強いまちづくりを進めていくためには、地域の皆さんの自助、共助、行政との連携が今まで以上に不可欠ななっています。



全町一斉防災訓練は、一年に一回ですが、一人一人が日ごろから災害に備え、万が一の際に自分の命を守ることが一番大切です。

町では、今年4月に日野町防災マップを全戸配布しています。地震や土砂災害発生時に取るべき行動、危険箇所や避難所、日ごろの備えなどについて記載していますので、ぜひ活用し、防災意識の高揚および災害への備えについて考えるきっかけにしてください。

住民の皆さんの安心安全な暮らしを支え、災害に強いまちづくりを進めていくためには、20年前の震災から得た教訓を風化させることなく、防災・減災への取り組みを推進し、次世代につないでいかなければなりません。

今後も、防災行政をはじめ、まちづくりの推進に、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。